

県地域公共交通計画骨子（案）

令和5年3月14日

静岡県地域公共交通活性化協議会事務局

富国 有徳の理想郷 - しずおか
ふじのくに



1

目次

1 本計画の骨子とは

2 骨子（案）の全体像

3 各項目の内容

（参考）ウェルビーイング（Well-Being）指標

2

1 骨子とは

骨子は、2つの意味で扱われる

要点

骨組み

県地域公共交通計画では「要点」の意味で扱う



県地域公共交通計画のプラン編を策定する上での要点を示し、計画の輪郭について協議いただくもの

3

2 骨子（案）の全体像

※着色箇所は第2回協議会までに設定した内容

| | | | | |
|---|---|--------------------------------------|--|---|
| はじめに 策定の目的、計画区域、計画期間 | | 1 地域の現状等 地勢・地理、県の社会状況、経済状況 | 2 上位・関連計画の整理 国の法令・計画、県の上位計画、県の関連計画 | |
| 3 地域旅客運送サービスの現状 公共交通利用者数 交通事業者の収支 公共交通の担い手 県民の公共交通への意識 | 4 地域旅客運送サービスの役割と課題整理 県内各地を結ぶ公共交通ネットワークの維持 公共交通の安全・安心の確保 地域のニーズ、利用者のニーズに応じた移動手段の用意 県民と交流客双方の視点での公共交通の利便性向上 公共交通の存在を地域資源として位置付け、県民の利活用を促進 このほか 県内4地域が現在直面する各課題 | | 5 将来、目指す姿 "ふじのくに"デジタル田園都市の実現 持続可能な社会を支える公共交通 誰もが移動に困らない質の高いサービスの提供 | 6 基本的な方針 今回提示 |
| 7 計画の目標 1 好きな時 好きな場所へ 2 安全・安心 ・快適 3 最適な移動 手段 4 交流の利便性 向上 5 地域の誇り (シビックプライド) 県内4地域 | 8 目標達成のための施策 今回提示 (今後精査) | | 9 計画達成状況の評価 今回提示 (今後精査) | 10 新たな技術の導入・ 社会情勢の変化への対応 今回提示 (今後精査) |

【特集・コラム】 県内公共交通の歴史、各事業者の紹介、QoL、災害対応、脱炭素、交通事故、コネクテッド+ネットワーク、渋滞対策など 4

3 各項目の内容

序章（はじめに）

| 項目 | 内 容 |
|----|---|
| 名称 | “ふじのくに”地域公共交通計画 |
| 目的 | 人口減少や新型コロナウイルス感染症等の影響により、厳しい状況に置かれている地域公共交通の維持、活性化を目的として、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、これまでの計画に無い考え方を取り入れた持続可能で利便性の高い公共交通サービスを利用者に提供するため |
| 区域 | 静岡県全域 |
| 期間 | 5年間（令和6～10年度） |

※計画の概要
(第1回協議会)

5

3 各項目の内容

第1章（地域の現状等）

| 項 目 | 主な内容 |
|------------|---|
| 地勢 ・地理 | 位置図、地形図 |
| 県の社会 状況 | 人口減少、少子高齢化の進展 運転免許返納者の増加 交通渋滞の発生 交通事故の発生 脱炭素化の遅れ を示す資料 |
| 県の経済 状況 | 県予算の推移、 県財政力指数の推移 |

※地域交通を
取り巻く状況
(第2回協議会)

6

3 各項目の内容

第2章（上位・関連計画の整理）

| 項目 | 主な内容 |
|---------|---|
| 国の法令・計画 | 交通政策基本法、交通政策基本計画、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律 |
| 県の上位計画 | 県総合計画、美しい“ふじのくに”インフラビジョン |
| 県の関連計画 | 都市計画区域マスタープラン、都市交通マスタープラン、県観光基本計画、県長寿社会保健福祉計画 |

※計画の位置付け
(第1回協議会)

7

3 各項目の内容

第3章（地域旅客運送サービスの現状）

| 項目 | 主な内容 |
|-------------|-------------------------|
| 公共交通利用者数 | 各公共交通の利用者数の減少、新型コロナの影響 |
| 交通事業者の収支 | 各公共交通の収支の悪化、新型コロナの影響 |
| 公共交通の担い手 | 第二種免許保有者の減少、運転者の高齢化の進展 |
| 県民の公共交通への意識 | 6割がほとんど利用しない、4割がサービスに不満 |

※分析した現状
(第2回協議会)

8

3 各項目の内容

第4章（地域旅客運送サービスの役割と課題整理）

項 目

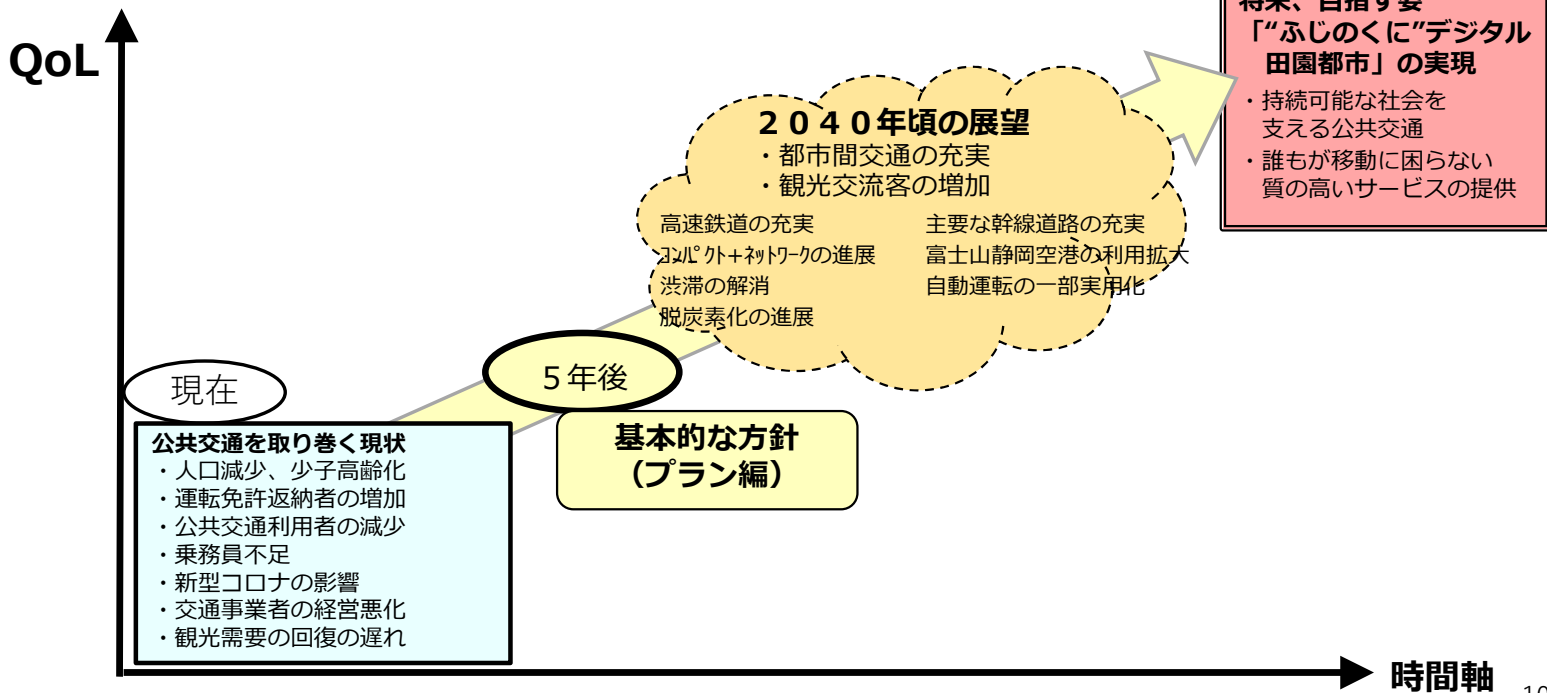
- 県内各地を結ぶ公共交通ネットワークの維持
- 公共交通の安全・安心の確保
- 地域のニーズ、利用者のニーズに応じた移動手段の用意
- 県民と交流客双方の視点での公共交通の利便性向上
- 公共交通の存在を地域資源として位置付け、県民の利活用を促進
- このほか 県内4地域が現在直面する各課題

※整理した課題
(第2回協議会)

3 各項目の内容

第2回協議会参考資料を基に作成

第5章（将来、目指す姿）



3 各項目の内容

第6章（基本的な方針）

公共交通サービスの確保が困難となる危機に直面する現在、サービスの低下を極力回避しつつ、ビジョン編で掲げた目指す姿の具体化イメージへとステップアップすべく、5か年の短期計画における基本的な方針を定める。

5か年(~2028年)

地域の足を支える公共交通の確保

乗りやすい、乗ってみたい公共交通サービスの提供

基本的な方針
(プラン編)



バックキャスト
テイング

2050年

持続可能な社会を支える公共交通

誰もが移動に困らない質の高いサービスの提供

目指す姿の具体化イメージ
(ビジョン編)

11

3 各項目の内容

第7章（計画の目標）

基本的な方針

地域の足を支える公共交通の確保

乗りやすい、乗ってみたい公共交通サービスの提供



計画の目標

- 1 好きな時 好きな場所へ
- 2 安全・安心・快適
- 3 最適な移動手段
- 4 交流の利便性向上
- 5 地域の誇り(シ"ック"ライト)

※ビジョン編で設定した目的地（ゴール）
(第2回協議会)

12

3 各項目の内容

第8章（目標達成のための施策）（県全体）（今後精査）

| 目標 | 主な施策 |
|-----------------------|--|
| 1 好きな時 好きな場所へ | (1) 公共交通ネットワークの維持確保 ・ 運転者等公共交通を支える人材確保 ・ 広域幹線交通の維持確保 ・ 都市計画など関連計画との連携強化 ・ 地域内交通を支える市町支援 ・ 災害対策、UD化の促進など (2) 公共交通の利活用促進 ・ モビリティマネジメントの推進 ・ 公共交通の役割・魅力の発信 など ・ 観光交流客の周遊促進 (3) 公共交通サービスの効率化・高度化 ・ DXの導入促進 ・ 交通結節点における円滑な接続 ・ 駅・停留所から自宅・目的地に向けた移動手段の確保の支援 ・ 脱炭素社会に向けた対応 など |
| 2 安全・安心 ・快適 | |
| 3 最適な 移動手段 | |
| 4 交流の 利便性向上 | |
| 5 地域の誇り (シビックプライド) | |

これらの主な施策を軸に、第4回協議会（令和5年7月予定）に向け、施策の検討を進めていく 13

3 各項目の内容

第8章（目標達成のための施策）（各地域）（今後精査）

| 地域 | 主な施策 |
|----|--|
| 伊豆 | 観光客の需要、観光地の分布に応じた移動手段に関する施策 観光客向けの超小型モビリティに関する施策 など |
| 東部 | 富士駅－新富士駅間、沼津駅から御殿場線各駅など交通結節点間の接続改善に関する施策 集客施設や観光地へのアクセスを、自家用車以外の移動手段に振り向ける施策 など |
| 中部 | 高齢者、バス停が遠い方、タクシーが使えない方、家族の送迎が受けられない方などの交通手段に関する施策 デマンド交通の効率化・合理化に関する施策 など |
| 西部 | 輸送資源のフル活用による、鉄道駅から目的地までの移動手段に関する施策 自動車・自転車と公共交通を組み合わせた移動に関する施策 など |

3 各項目の内容

第9章（計画達成状況の評価）（今後精査）

| 施策 | 数値指標 |
|-------------------------|-----------------------------------|
| (1) 公共交通ネットワークの維持確保 | 公共交通利用者数 幹線バスの利用者1人当たり行政負担額 など |
| (2) 公共交通の利活用促進 | 県民の公共交通の満足度 路線バスの遅延時間・遅延頻度 など |
| (3) 公共交通サービスの効率化・高度化 | 標準的なバス情報（GTFS）の公開率 など |

※施策に応じた数値指標について今後精査する。

15

3 各項目の内容

第10章（新たな技術の導入・社会情勢の変化への対応）

現在検討や研究が進んでいる次の項目については、公共交通に大きく寄与すると期待されることから、社会情勢の変化と併せ、最新情報に注視する。その上で、年度毎に行う計画達成状況の評価と併せて協議会内で共有し、必要に応じて計画に反映していく。

| 項目 |
|--------------|
| あらゆる輸送資源の総動員 |
| 自動運転技術の実用化 |
| DXによるMaaSの深化 |
| 上下分離の導入 |
| 交通税の導入 |
| 欧州など海外事例の導入 |

16

3 各項目の内容

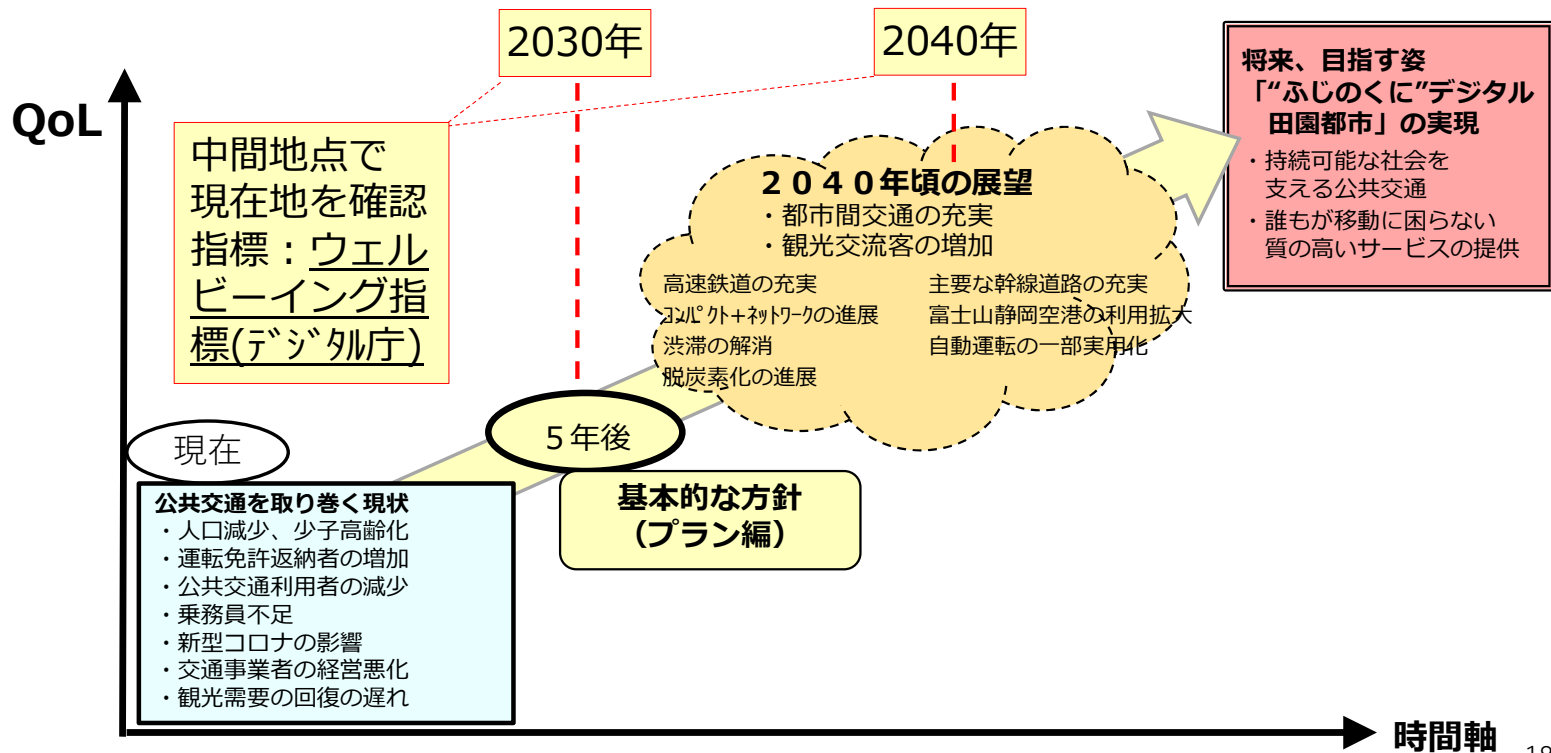
特集・コラム

項目

- 県内公共交通の歴史
- 各事業者の紹介
- QoL
- 災害事例
- 脱炭素
- 交通事故
- コパ°外+ネットワーク
- 渋滞対策

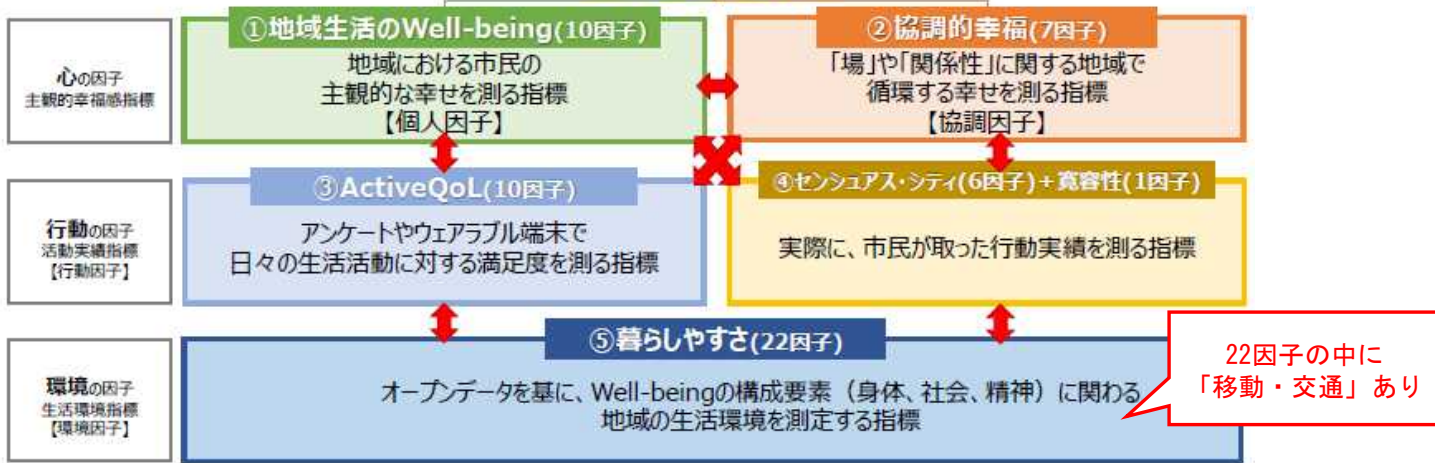
協議会での議論や現状分析の中で取り上げられた項目について、特集やコラムなどの形で記載する

(参考) ウェルビーイング (Well-Being) 指標



(参考) ウェルビーイング (Well-Being) 指標

デジタル庁が、デジタル田園都市国家構想の基本ツールとして採用。住民の「暮らしやすさ」や「幸福感の向上度合い」を誰にでもわかり易く可視化するため、主観と客観の両面で測定し、統合的な指標として市町単位で公開している。全体として、5つの指標（計56因子）で構成されている。



出典：LWC指標活用ガイドブック（デジタル庁、一般社団法人スマートシティ・インスティテュート）

(参考) ウェルビーイング (Well-Being) 指標

暮らしやすさ客観指標【浜松市の例】



出典：LWC指標（一般社団法人スマートシティ・インスティテュート）20